

古文ドリル：敬語の種類見分け 100問

対象：高校生・大学受験生 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：敬語の3種類

古文の敬語は **3種類** あります。

種類	敬意の対象	例
① 尊敬語	動作主 を敬う	給ふ・おはす・仰す
② 謙譲語	動作の受け手 を敬う	奉る・参る・申す
③ 丁寧語	聞き手・読み手 を敬う	侍り・候ふ

主な敬語動詞

尊敬語

動詞	訳
給ふ	～なさる
おはす	いらっしゃる
仰す	おっしゃる
召す	お召しになる
御覧	ご覧になる
大殿籠る	お休みになる
思す	お思いになる

謙讓語

動詞	訳
奉る	差し上げる
参る	参上する
申す	申し上げる
仕うまつる	お仕えする
賜ふ（下二段）	いただく

丁寧語

動詞	訳
侍り	～です・～います
候ふ	～です・～います

識別の鉄則

1. **誰の動作か**を確認
2. **その動作を誰に対してするか**を確認
3. 動作主を敬う → 尊敬
4. 受け手を敬う → 謙讓
5. 聞き手を敬う → 丁寧

二重敬語（最高敬語）

- 「せたまふ」「させたまふ」「しめたまふ」
- 帝・中宮など最高位の人物に対する敬意
- 「使役+尊敬」ではなく「尊敬の二重」と読む場合に注意

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。
こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 敬語動詞は「形を見ただけで」種類が分かる（暗記が最強）

種類別の 頻出敬語動詞だけ覚えれば 文脈不要で即答できる： - 尊敬 → 給ふ（四段）／おはす／仰す／召す／御覧ず／大殿籠る／思す - 謙譲 → 奉る／参る／申す／仕うまつる／賜ふ（下二段） - 丁寧 → 侍り／候ふ（の2語だけ）

「侍り・候ふ」を見たら 無条件で丁寧（所在の意味は別）。

コツ② 「給ふ」は四段なら尊敬、下二段なら謙譲

同じ「給ふ」でも 活用 で意味が変わる超頻出ポイント： - 四段「給ふ」（給は・給ひ・給ふ・給ふ・給へ・給へ）→ 尊敬「～なさる」 - 下二段「給ふ」（給へ・給へ・給ふ・給ふる・給ふれ・給へよ）→ 謙譲「～させていただく」

下二段の「給ふ」は会話文・手紙文の「思ふ・見る・聞く・知る」など知覚動詞にしか付かない。

コツ③ 「奉る」「参る」は文脈で意味が分岐

- ・ 奉る → 基本は謙譲「差し上げる」、ただし「お召しになる／お乗りになる」の尊敬用法あり
- ・ 参る → 基本は謙譲「参上する」、ただし「召し上がる」の尊敬用法あり

迷ったら 動作の流れ をチェック：身分の高い人へ向かう動きなら謙譲、身分の高い人がする動きなら尊敬。

コツ④ 動作主を文の主語から逆算する

種類を決めるには「誰がする動作か」を見る： - 動作主が 身分高い人 → 尊敬 - 動作主が 身分低い人で、行為の先に身分高い人がいる → 謙譲 - 話し手が 聞き手 に丁寧で話している → 丁寧

試験本番でのチェック順序

1. 「侍り・候ふ」なら即 丁寧 で確定
2. 「給ふ」を見たら 活用 をチェック（四段＝尊敬／下二段＝謙譲）
3. 残りは敬語動詞リストの 形 で種類を即決
4. 「奉る・参る」は文脈で尊敬・謙譲を分岐

→ この順番で 3秒 で答えが出ます。

よくある引っかけ

- ・ 「給ふ」を全部尊敬と誤答 → 下二段は謙譲（思ひ給へ・見給へ等）
- ・ 「侍り」を「ある／いる」の意味だけで取る → 補助動詞なら丁寧
- ・ 「奉る」「参る」を全部謙譲と誤答 → 「お召しになる／召し上がる」は尊敬

採点表

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
- 標準 (Q21~Q50) : /30
- 応用 (Q51~Q80) : /30
- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- 合計 : /100

【第1部】基礎編 (Q1~Q20)

Q1. 敬語の種類を答えよ。

帝、御文書か**せたまふ**。

答え : 尊敬語 (二重敬語) **解説** : 「せたまふ」 = 帝に対する尊敬。「お書きになる」。

Q2. 種類を答えよ。

御文を**奉る**。

答え : 謙讓語 **解説** : 「奉る」 = 差し上げる。お手紙を差し上げる相手を敬う。

Q3. 種類を答えよ。

「これは尊し」と**申す**。

答え : 謙讓語 **解説** : 「申す」 = 言うの謙讓。聞き手 (高貴な人) を敬う。

Q4. 種類を答えよ。

我れも参り**侍り**。

答え : 丁寧語 **解説** : 「侍り」 = 丁寧 (~です)。話し相手を敬う。

Q5. 種類を答えよ。

中宮、御覧ず。

答え：尊敬語 解説：「御覧ず」＝ご覧になる。中宮に対する尊敬。

Q6. 種類を答えよ。

御所に参る。

答え：謙讓語 解説：「参る」＝行くの謙讓。御所を敬う。

Q7. 種類を答えよ。

法皇、御幸おはす。

答え：尊敬語 解説：「おはす」＝いらっしゃる。法皇を敬う。

Q8. 種類を答えよ。

君に仕うまつる。

答え：謙讓語 解説：「仕うまつる」＝お仕えする。君を敬う。

Q9. 種類を答えよ。

物侍り。

答え：丁寧語 解説：「侍り」＝ございます。

Q10. 種類を答えよ。

上、仰せらる。

答え：尊敬語 解説：「仰す」＝おっしゃる。上を敬う。

Q11. 種類を答えよ。

大納言、御前に候ふ。

答え：丁寧語 or 謙譲語 **解説：**「候ふ」は丁寧（～です・います）／謙譲（控える）の両方あり。文脈で判断。

Q12. 種類を答えよ。

帝、御物の怪に苦しませたまふ。

答え：尊敬語（二重敬語） **解説：**「苦しま」（未然形）＋「せ」（尊敬の助動詞「す」連用形）＋「たまふ」（尊敬の補助動詞）。「せたまふ」の二重敬語（最高敬語）で帝を敬う。

Q13. 種類を答えよ。

我れ、御前にまうづ。

答え：謙譲語 **解説：**「まうづ（参づ）」＝「行く・来」の謙譲語。「御前」（高貴な方の御前）に参上する意。動作の向かう先である高貴な方を敬う。

Q14. 種類を答えよ。

院、大殿籠る。

答え：尊敬語 **解説：**「大殿籠る」＝お休みになる。院を敬う。

Q15. 種類を答えよ。

ありがたく思ひ給ふること。

答え：謙譲語（下二段「給ふ」連体形） **解説：**下二段「給ふ」は通常、思考・知覚動詞（思ふ・見る・聞くなど）の補助動詞として用いられる謙譲表現。「ありがたく思っております」と訳す。

Q16. 種類を答えよ。

「いま参り候ふ」と申す。

答え：丁寧語 **解説：**「候ふ」＝～です。聞き手を敬う。

Q17. 種類を答えよ。

御簾を上げさせたまふ。

答え：使役＋尊敬（女房等に御簾を上げさせなさる） **解説**：御簾を上げる動作は通常、女房など下位者が行う。動作主は女房側で、文の主語（高貴な方）が「上げさせる」という使役の意。「させ」が使役、「たまふ」が尊敬の補助動詞となる。

Q18. 種類を答えよ。

御文を奉る。

答え：謙譲語 **解説**：「奉る」＝「与ふ」の謙譲語（差し上げる）。動作の受け手（御文を受け取る相手）を敬う。

Q19. 種類を答えよ。

御前に侍ふ。

答え：謙譲語 or 丁寧語 **解説**：「侍ふ」＝控える（謙譲）／～です（丁寧）。

Q20. 種類を答えよ。

帝、思しめす。

答え：尊敬語 **解説**：「思しめす」＝お思いになる。帝を敬う。

基礎編 / 20

【第2部】 標準編（Q21～Q50）

Q21. 種類と敬意の対象を答えよ。

中宮、御文を奉る。

答え：謙譲語／受け取り手（差し上げる相手）への敬意 **解説**：「奉る」は謙譲。差し上げる相手を敬う。

Q22. 種類と敬意の対象を答えよ。

中宮、御文奉りたまふ。

答え：謙譲＋尊敬／受け取り手と中宮の両方を敬う 解説：「奉り」＝謙譲、「たまふ」＝尊敬。動作主中宮（尊敬）と受け取り手（謙譲）の二重敬意。

Q23. 種類を答えよ。

「我れも参り侍りぬ」と申す。

答え：丁寧語 解説：「侍り」＝～です・います。聞き手を敬う。

Q24. 種類を答えよ。

帝、御簾を上げさせたまふ。

答え：尊敬語（二重敬語） 解説：「させたまふ」＝最高敬語。帝に対する敬意。

Q25. 種類を答えよ。

御供に仕うまつる。

答え：謙譲語 解説：「仕うまつる」＝お仕える。

Q26. 種類を答えよ。

いと尊くおはします。

答え：尊敬語 解説：「おはします」＝「おはす」の最高敬語化。いらっしゃる。

Q27. 種類を答えよ。

御物をたまはる。

答え：謙譲語 解説：「たまはる」＝いただく。「賜ふ（下二段）」と同系。

Q28. 種類を答えよ。

「いとあはれなり」と仰せらる。

答え：尊敬語 解説：「仰せらる」＝「仰す」＋尊敬「らる」。おっしゃる。

Q29. 種類を答えよ。

御前に候ひけり。

答え：謙譲語 or 丁寧語 解説：「候ふ」＝控える（謙譲）／～です（丁寧）。文脈で判断。

Q30. 種類を答えよ。

御文を中宮より賜ふ（四段）。

答え：尊敬語 解説：「賜ふ」四段＝お与えになる。中宮を敬う。

Q31. 種類を答えよ。

文を奉りたまふ。

答え：謙譲＋尊敬 解説：「奉り」＝謙譲、「たまふ」＝尊敬。受け取り手と動作主の両方を敬う。

Q32. 種類を答えよ。

帝、御簾の中に入らせたまふ。

答え：尊敬語（二重敬語） 解説：「せたまふ」最高敬語。

Q33. 種類を答えよ。

御前に参り侍り。

答え：謙譲（参り）＋丁寧（侍り） 解説：「参り」＝動作の向かう先を敬う、「侍り」＝聞き手を敬う。

Q34. 種類を答えよ。

御物を召す。

答え：尊敬語 解説：「召す」＝お召しになる・お呼びになる。動作主を敬う。

Q35. 種類を答えよ。

「行く」をまうづ。

答え：謙譲語 解説：「まうづ」＝「参る・行く」の謙譲。向かう先を敬う。

Q36. 種類を答えよ。

院、御覧ぜさす。

答え：尊敬語 解説：「御覧ず」＋使役・尊敬「さす」。院を敬う。

Q37. 種類を答えよ。

御文をたてまつる。

答え：謙譲語 解説：「たてまつる（奉る）」＝差し上げる。

Q38. 種類を答えよ。

御台ばかり侍り。

答え：丁寧語 解説：「侍り」＝ございます。

Q39. 種類を答えよ。

中宮、御文を御覧ず。

答え：尊敬語 解説：「御覧ず」＝ご覧になる。中宮を敬う。

Q40. 種類を答えよ。

御父にまゐる。

答え：謙讓語 解説：「まゐる」＝参上する。御父を敬う。

Q41. 種類を答えよ。

君、おぼしわづらふ。

答え：尊敬語 解説：「おぼす（思す）」＝お思いになる。

Q42. 種類を答えよ。

さぶらふ人召せ。

答え：謙讓語（or 丁寧語の本動詞用法） 解説：「さぶらふ（候ふ）」＝「あり・仕ふ」の謙讓語（お仕えする）。「お仕えしている人をお呼びになれ」。文脈によっては丁寧語「あります・います」の意でも使われる。

Q43. 種類を答えよ。

我れ、御いとまたまはる。

答え：謙讓語 解説：「たまはる」＝いただく。

Q44. 種類を答えよ。

帝、思しめしたり。

答え：尊敬語 解説：「思しめす」＝「思す」よりさらに高い尊敬。帝に対する敬意。

Q45. 種類を答えよ。

御文を書きまゐらす。

答え：謙讓語 解説：「まゐらす」＝差し上げる。「奉る」と同系。

Q46. 種類を答えよ。

御供に候ひたまふ。

答え：謙讓（候ひ）＋尊敬（たまふ） 解説：「候ふ」＝控える（謙讓）、「たまふ」＝動作主を敬う。

Q47. 種類を答えよ。

御所にまゐりたり。

答え：謙譲語 解説：「まゐる」＝参上する。

Q48. 種類を答えよ。

帝、御簾を召したまふ。

答え：尊敬語 解説：「召す」＋「たまふ」。帝を敬う。

Q49. 種類を答えよ。

「侍に候ふは誰ぞ」と仰す。

答え：丁寧／謙譲（「候ふ」）＋尊敬（「仰す」） 解説：「候ふ」は文脈で謙譲・丁寧を判別。

Q50. 種類を答えよ。

我れ、御文をまゐらす。

答え：謙譲語 解説：「まゐらす」＝差し上げる。

標準編 / 30

【第3部】 応用編 (Q51～Q80)

複合敬語・敬語連動・誰から誰への敬意かを問う。

Q51. 敬意の方向（誰から誰へ）を答えよ。

大臣、帝に文を奉りたまふ。

答え：「奉り」＝大臣から帝への敬意（謙譲）／「たまふ」＝作者から大臣への敬意（尊敬） 解説：謙譲は動作主から受け取り手へ、尊敬は作者（語り手）から動作主への敬意。

Q52. 敬意の方向を答えよ。

中宮、御文を御覧じたまふ。

答え：「御覧じ」＋「たまふ」ともに作者から中宮への尊敬（二重敬語） 解説：尊敬の重ね＝最高敬語。

Q53. 敬意の方向を答えよ。

「我れ、参り侍り」と申す。

答え：「侍り」＝話し手から聞き手（高貴な人）への丁寧 解説：会話文の中の丁寧語は聞き手敬意。

Q54. 種類を答えよ。

帝、御心を思しめさせたまふ。

答え：尊敬語（二重敬語） 解説：「思しめす」＋「せたまふ」＝最高敬語。

Q55. 種類を答えよ。

中宮、おはしましけり。

答え：尊敬語 解説：「おはします」＝最高位の「いらっしゃる」。

Q56. 種類を答えよ。

「おそろし」とおぼしたまふ。

答え：尊敬語（二重） 解説：「おぼす」＋「たまふ」。動作主を敬う。

Q57. 種類を答えよ。

御簾の前にさぶらひたまふ。

答え：謙譲（さぶらひ）＋尊敬（たまふ） 解説：「さぶらふ」＝控える（謙譲）／「たまふ」＝動作主を敬う。

Q58. 種類を答えよ。

「これは尊し」と申したまふ。

答え：謙讓（申し）＋尊敬（たまふ） 解説：「申す」＝言うの謙讓、「たまふ」＝動作主を敬う。

Q59. 種類を答えよ。

御たよりにたまはせたり。

答え：尊敬語 解説：「たまはす」＝お与えになる（尊敬）。

Q60. 種類を答えよ。

帝、仰せ言たまふ。

答え：尊敬語 解説：「仰せ言」＝ご命令、「たまふ」＝尊敬。帝を敬う。

Q61. 敬意の方向を答えよ。

「君にさぶらはむ」と申す。

答え：「さぶらは」＝話し手から君への謙讓 解説：会話文中の謙讓は聞き手・受け手への敬意。

Q62. 種類を答えよ。

御けしきをたまはらむ。

答え：謙讓語 解説：「たまはる」＝いただく。

Q63. 種類を答えよ。

「御文を奉りつ」と申し侍り。

答え：謙讓（奉り）＋謙讓（申し）＋丁寧（侍り） 解説：3敬語連動。「奉る・申し」謙讓、「侍り」丁寧。

Q64. 種類を答えよ。

帝、御目にて御覧じたまふ。

答え：尊敬語（二重敬語） 解説：「御覧ず」＋「たまふ」。最高敬語。

Q65. 種類を答えよ。

中宮まゐりたまへり。

答え：謙讓（まゐり）＋尊敬（たまへ） 解説：「まゐる」＝参上する（謙讓）、「たまふ」＝中宮を敬う。

Q66. 種類を答えよ。

「御文たてまつりたまへ」と仰す。

答え：謙讓（たてまつり）＋尊敬（たまへ）＋尊敬（仰す） 解説：3敬語の連鎖。文脈で読み解く。

Q67. 種類を答えよ。

帝、御覧ぜさせたまふ。

答え：尊敬語（二重敬語） 解説：「御覧ず」＋「させたまふ」。最高敬語。

Q68. 種類を答えよ。

御供にさぶらひ侍り。

答え：謙讓（さぶらひ）＋丁寧（侍り） 解説：「さぶらふ」謙讓＋「侍り」丁寧。

Q69. 種類を答えよ。

「これを召したまへ」と申す。

答え：尊敬語（召し＋たまへ）／謙讓（申す） 解説：「召す」尊敬＋「たまへ」尊敬。「申す」は話し手の謙讓。

Q70. 種類を答えよ。

御おもてをまもりたまふ。

答え：尊敬語 解説：「まもる」（じつと見守る）＋「たまふ」。動作主を敬う。

Q71. 種類を答えよ。

御文を奉らせたまふ。

答え：謙譲（奉ら）＋尊敬（せたまふ） 解説：「奉る」謙譲、「せたまふ」最高敬語。

Q72. 種類を答えよ。

御祈りせさせたまふ。

答え：尊敬語 解説：「せたまふ」または「させたまふ」＝最高敬語。

Q73. 種類を答えよ。

「行く」と申したまへり。

答え：謙譲（申し）＋尊敬（たまへ） 解説：「申す」謙譲＋「たまふ」尊敬。

Q74. 種類を答えよ。

御物を奉らす。

答え：謙譲語 解説：「奉る」＋「す」（使役）。差し上げさせる。

Q75. 種類を答えよ。

中宮、御心をおぼしめさせたまふ。

答え：尊敬語（最高敬語） 解説：「おぼしめす」＋「せたまふ」。中宮への最高敬意。

Q76. 種類を答えよ。

御簾の内にさぶらはせたまふ。

答え：謙讓＋尊敬（最高敬語） 解説：「さぶらふ」謙讓、「せたまふ」最高敬語。

Q77. 種類を答えよ。

「君にまうすべきこと侍り」と言ふ。

答え：謙讓（まうす）＋丁寧（侍り） 解説：「まうす（申す）」謙讓、「侍り」丁寧。

Q78. 種類を答えよ。

帝、御物の怪に苦しませたまふ。

答え：尊敬語（最高敬語） 解説：「せたまふ」最高敬語。帝に対する敬意。

Q79. 種類を答えよ。

御気色をたまはりたり。

答え：謙讓語 解説：「たまはる」＝いただく。

Q80. 敬意の方向を答えよ。

「我れ、御供にまゐらむ」と申し侍り。

答え：「まゐら」＝話し手から御供の相手への謙讓／「申し」＝話し手から聞き手への謙讓／「侍り」＝話し手から聞き手への丁寧 解説：会話文内、3敬語の連動。

応用編 / 30

【第4部】 入試レベル (Q81～Q100)

最高敬語・絶対敬語・特殊敬語動詞。

Q81. 種類を答えよ。

帝に奏す。

答え：謙讓語（絶対敬語） **解説：**「奏す」＝帝・上皇に申し上げる。受け手が必ず天皇。絶対敬語。

Q82. 種類を答えよ。

中宮・東宮に啓す。

答え：謙讓語（絶対敬語） **解説：**「啓す」＝中宮・東宮（皇太子）に申し上げる。絶対敬語。

Q83. 種類を答えよ。

帝、御簾を上げさせたまふ。

答え：尊敬語（最高敬語） **解説：**「させたまふ」帝への最高敬意。「させ」を使役と取らない。

Q84. 種類を答えよ。

「しろしめすところなり」と申す。

答え：尊敬語 **解説：**「しろしめす」＝お知りになる。最高敬語。

Q85. 種類を答えよ。

「あな尊」とのたまふ。

答え：尊敬語 **解説：**「のたまふ」＝おっしゃる。動作主を敬う。

Q86. 種類を答えよ。

御命をたてまつる。

答え：謙讓語 **解説：**「たてまつる」＝差し上げる。

Q87. 種類を答えよ。

院、おはしましぬ。

答え：尊敬語 **解説：**「おはします」＝いらっしゃる（最高位）。

Q88. 種類を答えよ。

御衣をたまはす。

答え：尊敬語 解説：「たまはす」＝お与えになる。動作主を敬う。

Q89. 種類を答えよ。

「君のあれば」とのたまはせたり。

答え：尊敬語（最高敬語） 解説：「のたまはす」＝「のたまふ」最高敬語化。

Q90. 種類を答えよ。

院、御心を思ほしたり。

答え：尊敬語 解説：「思ほす」＝お思いになる（最高敬語的）。

Q91. 種類を答えよ。

「御文をけいす」と申す。

答え：謙讓語（絶対敬語） 解説：「啓す」＝中宮・東宮に申し上げる。

Q92. 種類を答えよ。

御かしらおろしたまふ。

答え：尊敬語 解説：「御かしらおろす」＝出家なさる。「たまふ」で尊敬。

Q93. 種類を答えよ。

御物の怪にわづらはせたまふ。

答え：尊敬語（最高敬語） 解説：「せたまふ」帝・院などへの最高敬意。

Q94. 種類を答えよ。

「御文をたてまつらせたまへ」と申す。

答え：謙讓（たてまつら）＋尊敬（せたまへ）／申す＝謙讓 解説：3敬語の連鎖。文中の人物関係を整理する必要あり。

Q95. 種類を答えよ。

我れ、つかうまつり侍る。

答え：謙讓（つかうまつり）＋丁寧（侍る） 解説：「つかうまつる（仕うまつる）」＝お仕えする。「侍る」聞き手敬意。

Q96. 種類を答えよ。

御心をまどはせたまふ。

答え：尊敬語（最高敬語） 解説：「せたまふ」最高敬語。

Q97. 種類を答えよ。

御目見たまふ。

答え：尊敬語 解説：「目見（まみ）」＋「たまふ」。動作主を敬う。

Q98. 種類を答えよ。

帝、しろしめしたり。

答え：尊敬語 解説：「しろしめす」＝お知りになる（最高敬語）。

Q99. 種類を答えよ。

御供にひかへ侍り。

答え：謙讓／丁寧 解説：「ひかへ」（控える）の謙讓的用法＋「侍り」丁寧。

Q100. 次の文中のすべての敬語の種類を答えよ。

中宮、御文を御覧じ、「あはれ」と仰せられけるに、御供の人奉り、まみらせ侍りき。

答え： - 「御覧じ」 = 尊敬（中宮を敬う） - 「仰せられ」 = 尊敬（中宮を敬う、「らる」尊敬） - 「奉り」 = 謙讓（御供の人が中宮に対し） - 「まゐらせ」 = 謙讓 - 「侍り」 = 丁寧（聞き手を敬う）

解説：5敬語が一文に。誰の動作・誰への敬意かを丁寧に整理する必要がある総合問題。

入試レベル /20

採点振り返り

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
 - 標準 (Q21~Q50) : /30
 - 応用 (Q51~Q80) : /30
 - 入試レベル (Q81~Q100) : /20
 - 合計 : /100
-

あとがき

敬語の種類見分けの核心： - **動作主を敬う** → 尊敬 - **動作の受け手を敬う** → 謙讓 - **聞き手・読み手を敬う** → 丁寧 - **二重敬語（せたまふ／させたまふ）** → 最高敬語（帝・中宮・院） - **絶対敬語** → 「奏す」（帝へ）、「啓す」（中宮・東宮へ） - 「賜ふ」四段 = 尊敬、下二段 = 謙讓（同形異活用） - 「候ふ」「侍り」は文脈で謙讓／丁寧を判別

源氏物語・枕草子の必須文法。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太
